

第8弾

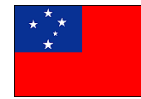
志布志モデル海を渡る!!

JICA草の根技術協力事業(地域経済活性化特別枠)
「サモアを中心とした大洋州における
志布志モデルの推進」

平成26年度(第2年次)報告

「志布志モデル」とは、焼却なしでごみを分別し
埋立ごみを減らす共生協働の取り組みのことです。

サモア独立国の概要



サモア独立国

Independent State of Samoa

ウポル島(サモア最大の島)、
サバイイ島(二番目に大きい島)、
マノ島、アポリマ島、ヌウサフェ島、
ヌウテレ島、ヌウルア島からなる島国

人口:188,900人(2012年、世界銀行)

面積:2,830km²(東京都の約1.3倍)

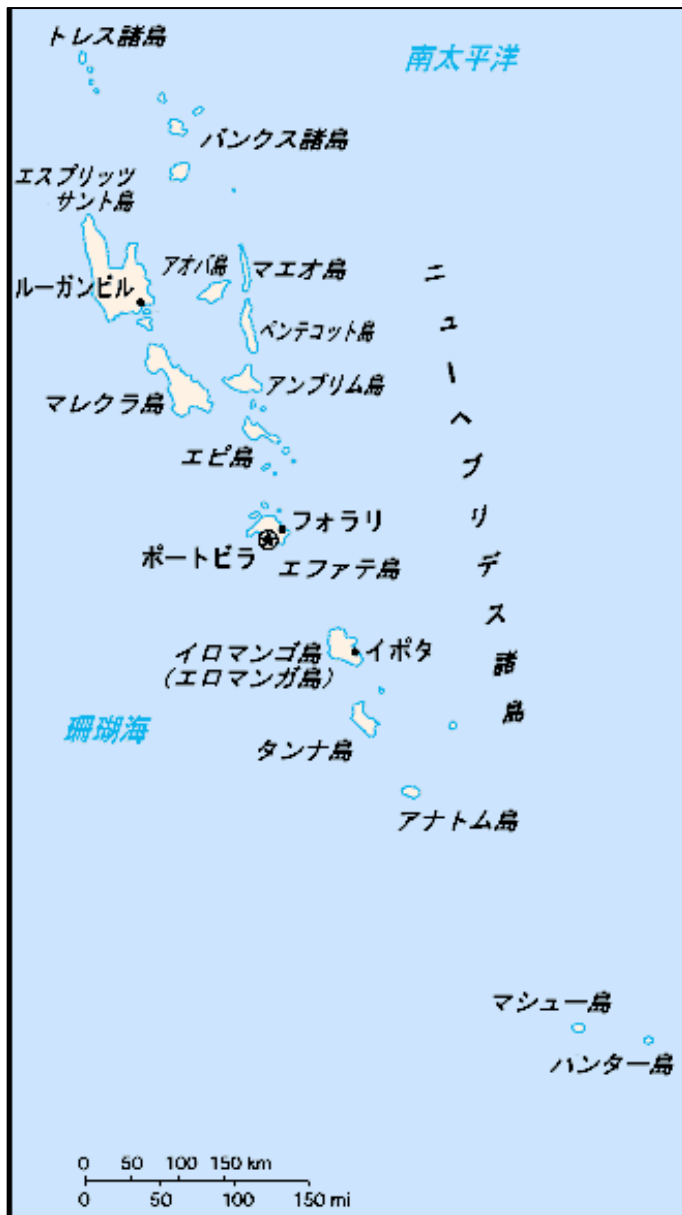
首都:アピア

民族:サモア人(ポリネシア系)90%、
その他(欧州系混血、メラネシア系、
中国系、欧州系等)

宗教:キリスト教(カトリック、メソジスト、
モルモン教等)

言語:サモア語、英語(ともに公用語)

バヌアツ共和国の概要



バヌアツ共和国
Republic of Vanuatu

800kmにわたって北北西から南南東に連なる83の島からなる国
そのうち、住民が居住する島は約70である
最大の島はエスプリッツサント島

人口: 約25万人

面積: 12,190km²(新潟県とほぼ同じ大きさ)

首都: ポートビラ

民族: メラネシア系(93%)、その他中国系、ベトナム系及び英仏人が居住

宗教: 主にキリスト教(プレスビテリアン、ローマ・カトリック、アングリカン、セブンス・デイ・アドベンティスト等)

言語: ビシュラマ語(ピジン英語)、英語、仏語(いずれも公用語)

第2年次事業(平成26年度)

受入事業

サモア、バヌアツから研修員(9名)を受け入れ、志布志市にて廃棄物管理についての研修を実施した。

【実施期間】H26.7.3～7.14

派遣事業

市役所2名、そおりサイクルセンター2名の計4名で、サモア国、バヌアツ国にて、計3回(うち、サモアへ2回、バヌアツへ1回)の現地指導等を行った。

【実施期間】サモア派遣:H26.7.31～8.11、11.1～11.11

バヌアツ派遣:H26.9.25～10.6

受入事業（廃棄物収集の見学）



分別された資源ごみの状況と分別収集について見学しました。
サモア、バヌアツではこのような分別排出・収集はされていません。

2014.7.4 本村集会所にて

受入事業（廃棄物中間処理の体験）

2014.7.8 (有)そおりサイクルセンター中間処理施設にて

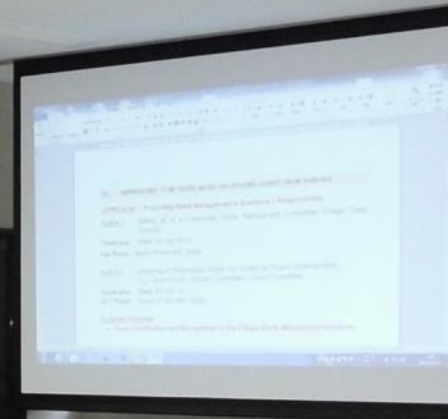


資源ごみの中間処理作業を体験しました。
リサイクル可能な資源ごみの種類が多いことに驚いていました。
サモア、バヌアツでは、民間業者による一部のごみ(空き缶など)がリサイクルされています。

受入事業（アクションプラン発表）

2014.7.14 志布志市役所にて

モアを中心とした大洋州における志布志モデルの推進
～JICA草の根技術協力事業（地域経済活性化特別枠）～
PROMOTION OF SHIBUSHI MODEL (WASTE MINIMIZATION WITHOUT
INCINERATION) FROM SAMOA TO PACIFIC ISLAND COUNTRIES



Japanese Technical cooperation
Action Plan
アクションプラン
Closing

今回の研修を受けて、帰国後のアクションプラン（行動計画）を発表しました。サモアでは裏庭コンポストを行い有機ごみの堆肥化に取り組むとのことでした。各自、研修で学んだことを持ち帰り、出来ることを実践するという意思を確認しました。

帰国後に期待

研修生と関係者を交えて記念撮影



2014.7.3 歓迎会 in 有明農業歴史資料館(体験館)

サモア派遣事業（最終処分場視察）

2014.8.6 タファイガタ最終処分場にて



ここに搬入されるごみを減らすため、有機ごみ(特に草木ごみ)の対策を協議しました。
プラスチックや紙ごみなど、あらゆるごみを埋立処分していました。

サモア派遣事業（裏庭コンポスト視察）

ヴァイアラ村で取り組んでいる草木ごみの堆肥化「裏庭コンポスト」を視察しました。発酵状況を確認し、専門家による指導を行いました。

2014.11.5 ヴァイアラ村にて

サモア派遣事業（コンポスト実習）



若者向けに、家庭で簡単に取り組める堆肥化についてデモンストレーションし、実際に参加者と一緒に段ボールコンポストを作ってみました。
生ごみ・草木ごみは細かくして入れることで、発酵しやすいことを伝えました。

2014.11.6 NPOウーマンインビジネスにて

サモア派遣事業（小学校での意見交換）

2014.11.7 Falefitu Schoolにて



小学校での環境の取り組みを視察し、環境に関する意見交換を行いました。
小さい頃からの環境学習は重要です。学校ではコンポストやごみの分別に取り組んでいました。学校での分別等取り組みが地域へも波及することを期待しているとの発言がありました。

サモア派遣事業（表敬訪問・意見交換など）



関係機関を表敬訪問し、サモア国にて志布志モデルを推進するため意見交換・協議を行いました。



バナアツ派遣事業（最終処分場視察）

2014.9.27 ルーガンビル市最終処分場



1975年頃から埋立している施設とのことで、過去には施設内で野焼きを実施していたそうです。ごみは分別されないまま埋立処分されており、リサイクル可能な段ボールやプラスチック、金属など多く含まれていました。

バナアツ派遣事業（最終処分場視察）

2014.11.7 ブッフア最終処分場
(ポートビラ市)



1995年から稼動している処分場。当初はただ積み上げたり、野焼きをしたりという状態でしたが、JICA支援により2006年から福岡方式に改善した施設と説明を受けました。分別されているのは、アルミ、スチール、金属類のみで、プラスチック、段ボールなどリサイクル可能な資源ごみも埋立処分されていました。

バナアツ派遣事業（ごみステーション）

様々な場所に設置されたごみステーション。ここに出されたごみは最終処分場に運ばれます。



マーケット内



集落内に設置している
ごみステーション



ポートビラ埠頭内



バナアツ派遣事業（コンポスト実演）

段ボールコンポストとバナナ乳酸菌の作り方のデモンストレーションを行いました。子供も含め50名ほどの参加者でした。積極的な質問もあり、活用への期待が伺えました。



2014.9.30 NGOワンスモールバッグにて

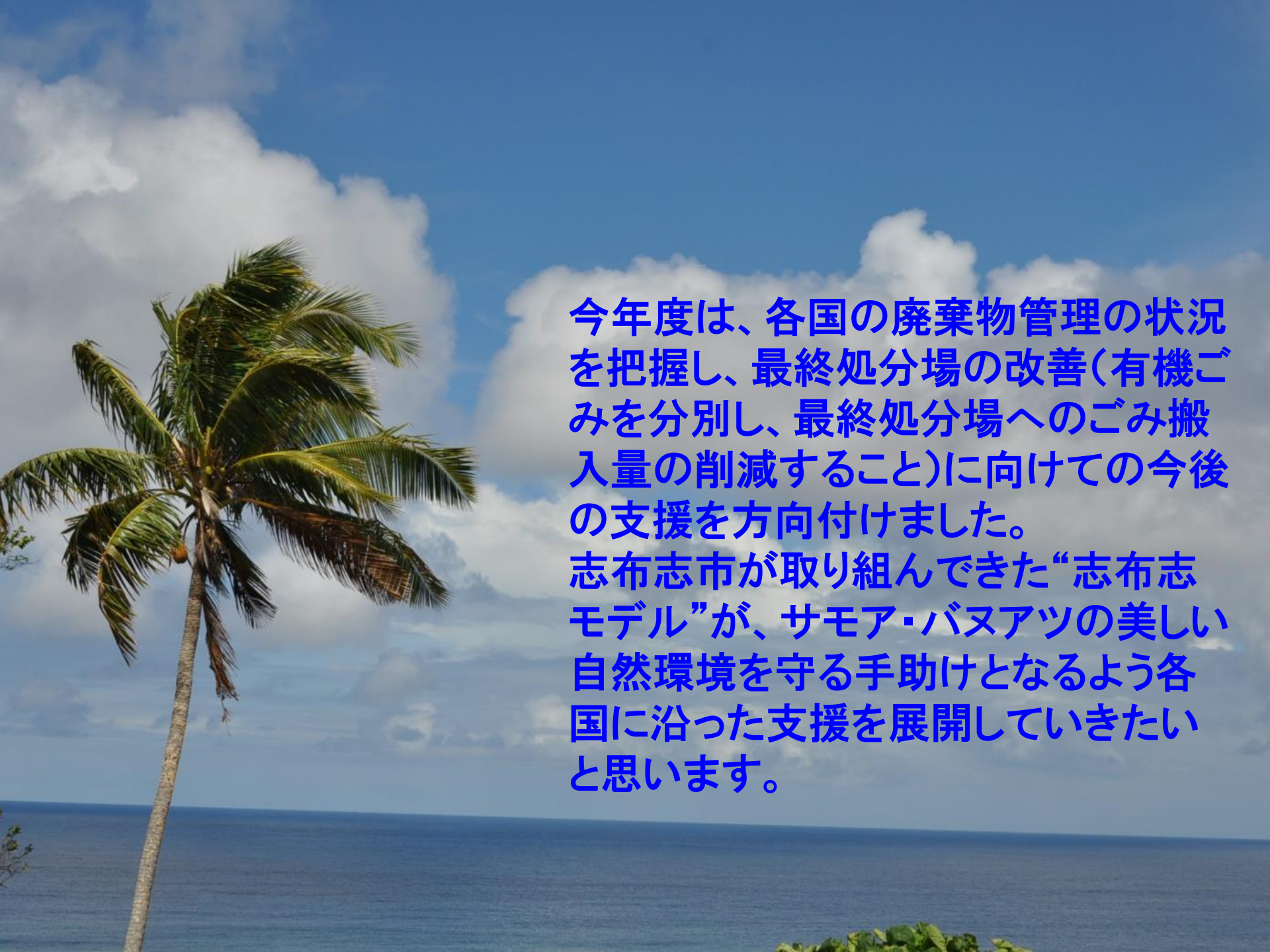
バヌアツ派遣事業

(表敬訪問・意見交換など)



関係機関を表敬訪問し、バヌアツ国にて志布志モデルを推進するため意見交換・協議を行いました。





今年度は、各国の廃棄物管理の状況を把握し、最終処分場の改善(有機ごみを分別し、最終処分場へのごみ搬入量の削減すること)に向けての今後の支援を方向付けました。
志布志市が取り組んできた“志布志モデル”が、サモア・バヌアツの美しい自然環境を守る手助けとなるよう各国に沿った支援を展開していきたいと思えます。